

令和7年度 第1回 播磨町上下水道運営委員会 議事概要

日 時	令和8年2月25日(水) 14時～15時35分
場 所	播磨町役場 第二庁舎3階 会議室1
出席者	<p>【播磨町上下水道運営委員】</p> <p>竹川 宏子(学識経験者・兵庫大学現代ビジネス学部教授)(会長) 西口 泰平(使用者の代表・播磨町商工会(株)西口商店) 中村 まさみ(使用者の代表・播磨町連合婦人会会長) 宮尾 尚子(使用者の代表・播磨町消費者協会副会長) 福島 正雄(使用者の代表・播磨町民生委員児童委員協議会副会長) 新居 崇裕(使用者の代表・播磨町自治会連合会自治会長)</p> <p>【事務局】</p> <p>藤原 崇雄(上下水道部長) 橋本 敏弘(上下水道課長) 石見 竜哉(上下水道課経営担当課長) 村田 隆 (上下水道課課長補佐) 西本 真規(上下水道課課長補佐) 丸山 徹也(上下水道課経営係長)</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 上下水道部長あいさつ 3 委員及び事務局の紹介 4 議事(1) 播磨町水道事業ビジョン・経営戦略の一部改訂について 5 質疑応答 6 その他 7 閉会

1 開会

2 部長あいさつ

(部長)

本日は、大変お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

皆様ご承知のとおり、上下水道施設の老朽化により全国各地で漏水や陥没事故が発生しており、ニュースでも大きく取り上げられています。

埼玉県八潮市の下水道管の破損による大規模陥没事故は衝撃的だったかと思いますが、未だに復旧ができておらず近隣住民の方は悪臭や工事の騒音などで大変不便を強いられています。

また、能登半島地震では上下水道施設が大きな被害を受け、避難所においても長期間上下水道が使用できない状況が続き、衛生環境の悪化を招きました。

このような状況を受けて、国の方では、上下水道一体での耐震化の方針を示しており、上下水道の基幹施設と特に重要な給水施設までの水道管とそこから流す下水道管の耐震化をできるだけ早く進めることが求められています。

この度の上下水道運営委員会でご審議いただく水道事業の経営戦略については、老朽化対策や耐震化など事業の方針とそれを実現するための財政収支計画を策定するものとなりますが、現計画は令和4年3月に策定したもので、当時と社会情勢や経営環境が大きく変化しており、見直しが必要な状況です。委員の皆様方には、率直なご意見をいただき、今後の経営課題や経営方針へ反映していきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

3 委員及び事務局の紹介

4 議事

議事（1）「播磨町水道事業ビジョン・経営戦略の一部改訂について」

(会長)

会長に選出していただきましてありがとうございます。播磨町で委員を引き受けさせていただいて何年にもなりますが、最初は料金改定、そして下水道、それから経営戦略の改定ということで、水道の専門家ということではありませんが、戦略ということについては学校で教えているという関係もあります。戦略というのは前を向いて将来のことを考えるということですね。ですので、少しでもお手伝いできればと思っております。今回は、状況が変わっていく中で将来どうやってこのサービスを維持していくのか。町が一度決めたものを途中で変えていくということ、戦略は必ずやりますので、ちょうどその機会になっているということです。その時期と、世の中が大きく変わる時期がぴったり重なっているということもありますので、ここで決めていく戦略をしっかりとやっていくことが、将来の播磨町に住む方のためになると、そういうふうによく考えられたらいいなと思います。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、これ以降の議事進行につきましては竹川会長にお願いしたいと思います。竹川会長よろしくよろしくお願いいたします。

(会長)

それでは議事進行が円滑に進みますよう皆様のご協力をよろしくお願いいたします。では早速ですが、議事に入らせていただきます。次第に沿って進めていきます。播磨町下水道事業ビジョン経営戦略の一部改定についてということで、事務局の方から説明をよろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは、水道事業ビジョン・経営戦略の一部改訂について説明させていただきます。着座にて失礼します。

お手元に「参考資料」としてお配りしている冊子になっている資料をご覧ください。これは、令和4年3月に策定した「播磨町水道事業ビジョン・経営戦略」です。水道事業ビジョン・経営戦略は、水道事業の目標となる将来像と具体的な施策や工程を示した本町の水道事業の運営方針を定めた基本計画になりまして、当時、総務省は全国の水道事業体に対して策定を求めています。この計画は、当時の上下水道運営委員会でも議題として挙げられ、審議されました。当時の委員でもあった竹川会長と西口委員は、ご記憶に残っておられることかと思いますが、改めて、経営戦略がどういった内容で構成されているのか、かいつまんで説明したいと思います。

表紙をめくって目次をご覧ください。まず、第1章から第3章では、策定の背景と目的、播磨町の概要、現状と課題が記載されています。第4章では、今後、給水人口はどうなっていくのか、水需要や給水収益の見通しはどうか。そのうえで、今後施設整備の更新需要を考えたときに、経営は成り立つのかどうかといったことを将来シミュレーションしています。このシミュレーションでは、このままでは事業継続が困難になることが示され、料金改定の必要性について言及しており、実際播磨町は令和5年4月に料金改定を実施しました。第5章では、水道事業の基本理念と基本目標について記載しています。第6章は、経営戦略の要（かなめ）の部分です。今後の投資計画を定め、収支が均衡するよう財政計画を作成しています。

このたび、計画策定から4年が経過しようとしています。計画策定以降、上下水道を取り巻く環境は色々変わってきており、計画の見直しが必要な状況になっています。令和6年1月に発生した能登半島地震では、上下水道施設の甚大な被害が発生し、浄水場や下水処理場に直結した管路など、被災すると広範囲かつ長期的に影響を及ぼす上下水道システムの急所施設の耐震化が未実施であったこと等により、復旧が長期化しました。こういった事情を背景として、国は全国の水道事業者および下水道事業者に対し、上下水道一体で耐震化を推進するための「上下水道耐震化計画」を策定するよう通知しました。これを受けて、当町におきましても令和7年1月に「上下水道耐震化計画」を策定し、現在この計画に沿って事業を進めているところでございます。

「播磨町水道事業ビジョン・経営戦略」の改訂は、この「上下水道耐震化計画」を反映させた投資計画にすることや、近頃の物価上昇や金利上昇を踏まえた財政計画に変更しようとするものです。それでは、改訂の内容を説明する前に、まずは「上下水道耐震化計画」の概要について、村田課長補佐より説明させていただきたいと思います。

(事務局)

それでは、資料1ページをお願いいたします。

上下水道耐震化計画についてでございますが、災害により、大きな影響を及ぼす施設や医療機関、規模の大きい避難所に接続する上下水道管路について、最優先で耐震化を実施することとしています。

計画期間は、令和7年4月～令和12年3月の5年間とし、対象施設は地域防災計画で定める「特に重要な施設」16施設で、計画期間内における目標施設数は5施設としています。

資料2ページをお願いいたします。

こちらは上下水道事業の耐震化計画図でございます。

北古田にございます、第3浄水場から2つの医療機関（はりま病院・岡本クリニック）を結ぶ基幹管路について重点的に整備を進めていく予定としており、岡本クリニック方面につきましては、整備期間の短縮を考慮して、病院側と浄水場の両側からの整備を行うこととしています。

それと茶色の線と赤くハッチで囲っている部分が下水道事業で、それ以外の青や黄色の線などは上水道事業を示しています。水色の箇所については令和11年度から3か年事業ですので、令和13年度までの事業を予定しています。

資料3ページをお願いいたします。

先ほどの図で○印を記入していました箇所で、上水道事業と下水道事業が輻輳している箇所の拡大図でございます。下水道事業については、本年度調査した結果、耐震化が必要な箇所はマンホール内で8か所、管路で約50mと判明しており、図で示している箇所の多くは大きな地震が発生しても機能が維持できる見込みです。

資料4ページをお願いいたします。

年次計画についてでございますが、計画期間での上水道事業及び下水道事業の工事等を列記しています。上水道事業では、令和9年度に加圧給水車を1台購入することとしています。また、配水本管の耐震化事業をデザインビルド方式とし、令和7年度から9年度ではりま病院までの耐震化を行い、令和9年度から11年度で岡本クリニックと播磨西小学校までの耐震化の完了を目指しており、スピードアップを図るため、令和9年度は重複させて実施する予定です。デザインビルド方式につきまして、聞きなれないかと思いますが、従来からの発注方法と異なり、官民連携により、設計、施工監理、工事実施までを一体として事業者が発注することにより、効率的に工期を短縮して行う手法です。全国的にみても事例が少ない手法で、近隣ではまだあまり実施されていませんが、水道管の耐震化を1日も早く進めるため、本町では令和4年度から採用しております。下水道事業では令和7年度～令和9年度に汚水管路の耐震対策を実施することとし、減災対策として町内4小学校にマンホールトイレの整備を進めていくこととしています。令和8年度のマンホール浮上防止対策につきましては診断の結果不要となりました。令和10年以降につきましては、雨水管きよの耐震化を進めることとしています。

資料5ページをお願いいたします。

事業進捗に対する財源についてでございますが、事業進捗を図るうえで、財源の確保が必要となりますが、国から交付金、つまり国費をいただいて、進捗を図りたいと考えています。中段下に記載があるように、下水道事業につきましては、過去からも交付金事業として事業採択されており、引続き交付金事業として事業を実施していきます。上段に記載の水道事業につきましては、これまで本町では国費の採択要件に該当していませんでしたが、国の令和6年度補正予算から新たに「加速化要件」として採択要件が追加されたことにより、本町も集中投資を行えば採択可能な条件となりました。この加速化要件の採択については、上下水道耐震化計画の公表を前提として、資料中段の要件①～③を満たす必要があります。このうち要件③につきましては非常に厳しい条件であり、直近5年間の耐震化率の上昇ポイントを今後5年間で1.5倍以上となるよう事業進捗を加速させる必要があることから、集中投資を行う必要があります。また、補助率が1/3となっておりますが、令和7年度における国費は35,932,000円確保できました。町における12月定例会においても、事業費の補正予算を確保できましたので、事業を前倒して投資額の増加になりますが、進捗を図りたいと考えています。今後、上下水道

の耐震化や一体効率化の事業については、他の事業体も一斉に事業化することで、国費の配分率が少なくなる可能性もあり、財源の確保が厳しくなることも予想されます。人件費や材料費の高騰もございますが、耐震化の進捗を図りたいと考えています。

こちらはお配りしていませんが、材料費や人件費の高騰についての参考資料を表示させていただきます。まずこの表は建設物価調査会によって、建設業に関する資材価格の物価上昇を過去20年間、調査したデータを表示しています。2006年ごろから現在に至るまで約60%上昇を続けており、近年コロナの影響や円安の影響、エネルギー価格の上昇など、様々な要因が重なって著しい上昇が続いています。今後どのように推移するかまだ想像できませんが、状況が厳しくなっていることがうかがえます。

次の表は、公共事業に関する人件費について表示していきまして、バブル崩壊後景気悪化の影響で人件費が減少し続けていきましたが、10年ほど前から深刻な人手不足を解消するため、大手企業が人材確保のため賃上げが加速し、平成24年から令和5年の伸び率が75%で、前年度ごとの伸び率としても5%ほど伸び続けている状況です。また、材料費や人件費以外にも、政府の働き方改革により週休二日制の導入などを進めることによって、諸経費の見直し等も行われており、事業に係る費用は右肩上がりで増加し続けている状況です。今後、財源確保が更に厳しい状況が続いていくと思いますが、事業担当としましては、できる限り国費を要望したり、事業の効率化を図るなど対策を検討しつつ、管路や施設の耐震化を図り、住民の皆さんの生命や財産を守るため、災害に強いまちづくりを行いたいと考えています。

以上で『上下水道耐震化計画について』のご説明とさせていただきます。

(会長)

ありがとうございました。

それでは一旦ここでご質問の時間をとりたいと思います。ご質問はございませんか。私から一つ質問よろしいですか。さっきの資材のグラフありましたよね。縦の軸の数字が見えなかったのですが、あれは何でしょうか。

(事務局)

これはパーセントになります。

(会長)

どのくらい上がっているのでしょうか。

(事務局)

105%から155%ぐらいです。

(会長)

そういう上がり方ですか。すごいですね。他にいかがでしょうか。

(委員)

数年前に自民党さんが国土強靱化計画でかなり予算措置しましたよね。下水道とかそういうハードの整備予算、今はそんなにないのでしょうか。

(事務局)

国の予算は、今年度確か15%ぐらい上積みされたと聞いております。その部分が下水道対策などに配分されるということは聞いておりました、昔に比べて増えてはいます。ただ、一時期の下水道整備の時期に比べて、配分がかなり落ちていたところがあるので、過去の事業量に対しては、まだまだ少ない状態で推移しているように思います。埼玉県の話もありますので、そういうライフラインの老朽化っていうのは、もう過去からずっと言われている話ですので、そういったところに配分していただいて、私達もしっかりと点検して対応したいと思います。

(会長)

ここが危ないからお金が必要ですよとなっても、調査をしっかりとしないと、ただ必要だから欲しいですではなかなか出てこないの、しっかりポイントとなる一番重要なところから調査をして、どこがまずやらなきゃいけないところなのかが、結構重要になってくるかなというところだと思います。他にいかがでしょうか。

(委員)

耐震化計画の対象施設が16施設あるということで、最初の5ヶ年計画で5施設だと単純計算で1年間に一つずつで、これ全部終わるのに15年かかる。最初に行うこの5施設っていうのは、どのようにして決めたのでしょうか。

(事務局)

耐震化計画の中で、両端にある医療施設を結ぶ基幹管路をルート上で出しております。それと小学校ですね。こちらが避難所指定をされておりますので、そちらを含めた形で、やっていくということになるのですが、南小学校が少し離れたところにあるので、南小学校を除く五箇所の優先度を上げてやっていくという形で考えております。

(会長)

他にいかがでしょうか。お気づきのことありましたら、最後の方でまとめていきますので、続きまして経営戦略の改定ですね。今回の改定内容について事務局の方から説明をいただきたいのでよろしくお願いたします。

(事務局)

資料4をご覧ください。資料4は、参考資料としてお配りしている現在の「播磨町水道事業ビジョン・経営戦略」を実際に改訂するページになります。参考資料と見比べながらご覧いただければと思います。それでは、改訂箇所を順番に説明していきます。改訂箇所は赤字で表示しています(図以外)

まず表紙ですが、改訂を「令和8年3月」とすること、発行主体を「上下水道グループ」から「上下水道課」に変更しています。

6ページをご覧ください。

このページでは、組織の説明文を変更しています。現在は機構改革によって組織名が変更されていることから、表現を改めています。

28ページをご覧ください。

28ページでは、「(2) 料金改定の検討」の後段の文章を変更しています。元々は、早期に料金改定を行うことが必要との表現にしていたましたが、現在はすでに料金改定が実施された後になりますので、表現方法を変更しています。

36ページをご覧ください。

ここでは、経営方針について「ヒト」「モノ」「カネ」の視点で記載しています。改訂後の計画では、上下水道耐震化計画を盛り込むこととしているため、「モノ」の欄にその記述を追加しています。

「カネ」の欄では、上下水道耐震化計画の推進にあたり国庫補助事業の活用が見込めることから、そのことを追記しています。

37ページをご覧ください。

このページでは計画期間（2022～2031）における目標設定を記載しています。目標設定の数値自体は変更しませんが、役職の呼称が変更（統括⇒課長）されていますので、そこは変更を加えます。

こちらの目標設定ですが、計画を策定した当初と現在とで状況が変わっているため、目標達成ができそうなもの、目標達成が難しいものが出てきていますので、少し説明したいと思います。参考資料の38ページをご覧ください。(2) 管路の更新率ですが、計画期間の平均更新率を年1.3%以上としています。管路の更新率とは、更新した管路の延長を、管路の総延長で割り戻した値になります。現在、基幹管路の更新を優先して行っていますが、基幹管路は口径が大きく、更新には時間と多額の費用がかかり、一度にたくさんの管路更新を行うことができません。現在は、デザインビルド方式という設計と施工を一体化した施工方法で事業を進めており、工期の短縮を図っています。それに加えて、基幹管路の更新自体も計画を前倒しし、更新速度を上げているところですが、通常の配水管の更新に比べて時間も費用もかかることから、管路更新率については目標の達成が難しい状況となっています。その一方で、基幹管路の耐震化率は2031年度時点で70%以上という目標をかかげていますが、こちらは目標を大きく超えることが見込まれています。

また、(6) 資金残高ですが、2031年度時点で10億円以上とする目標を掲げていますが、これも達成が難しい状況です。これについては、後ほど説明いたします。

39ページをご覧ください。

ここでは、投資計画の方針を示しています。投資計画の方針は、内容を全面的に見直すこととしました。新しい方針では、「上下水道耐震化計画」に基づき事業を進めることを明記しました。主要な更新事業についてはページ下部に図でお示ししていますが、当初の計画に比べて基幹管路の更新が前倒しされていることがわかるかと思います。また、老朽管更新事業と浄水場関連施設整備事業も計画を見直しました。

40ページをご覧ください。

ここでは財政計画の方針を示しています。当初、事業を実施するために必要な資金について、監査法人による財務分析から事業費の60%以内とすることが適当であるとして方針を定めました。しかし、先ほどの投資計画で説明したように、事業の前倒しを行いますので、計画期間中に投資が集中します。また、当初の想定よりも物価が大幅に上昇したことなどもあり、費用負担が大きくなっています。そのため、事業を実施するために必要な資金の借入れ割合の基本は事業費の60%以内とするものの、耐震化に重点的に取り組む期間においては、資金不足に備えるため借入額を増やすことを追記しました。

なお、料金改定が必要かどうか継続的に検証を行うためのスケジュールをページ下部にお示していますが、令和10～14年度分については来年度に検証を行う予定としています。

一旦ここで説明を終わらせていただき、ご意見やご質問などあればお受けしたいと思います。

(会長)

変更点についての説明がありましたがけれども、ご質問ご意見などいかがでしょうか。

(委員)

事業が集中するのであれば、財源の確保が必要だし、少々借金の額が増えてもいいのではないかと思うのですが。

(会長)

経営戦略を改訂して、その改定案がいいですねとなれば、借金ができると思います。

(事務局)

計画を策定した当初よりも、事業が集中して事業費が大きくなっています。ですので、借入額を増やさないと資金が持ちません。先ほど40ページを説明した際、「耐震化に重点的に取り組む期間においては、資金不足に備えるため借入額を増やします」というのを追記しています。事業費の60%を借り入れるという計画だと、やはり厳しくなります。今後の事業費や借入金がどうなるかということはシミュレーションをされていて、今から説明いたしますが、計画期間内は収支が均衡するようなものを策定いたしました。借入額は、増やす前提としています。

(会長)

39ページのところですけれども、更新事業を予定より早くやっているということと、事業の項目が増えていましたね。令和5年度からの事業は終わったものを付け足しているという感じですが、前の計画ではなぜ載っていなかったのでしょうか。

(事務局)

計画を策定したのが令和4年3月で、その時点では計画全体が漠然としたところもあり、事業を進めていく中で計画が具体化されていったというところがあります。すでに実施したものについては記載しておく必要があるだろうということで、変更しているものがあります。

(会長)

最初の計画に入っていなかったのは、読みが甘かったのかなと一瞬思ったのですが、それはどうなのでしょう。

(事務局)

さきほどのスライドで少しご説明させていただいた部分はあるのですが、財源確保の関係で事業を前倒しすることで国費の採択基準を満たせるというところがあったので、事業を前倒ししているような状況です。

(会長)

これも使えるからしっかり入れとこうみたいな感じで、急いで入れたという感じですね。わかりました。

(委員)

計画に南小学校が入っていないですが、南小学校は整備されないのでしょうか。

(事務局)

スライドでもご説明させていただきましたが、2ページを見ていただくと、令和11年度に地図の中央水色のルートを整備します。南小学校は、この水色のルートが出来上がらないと接続ができませんので、後回しにしているというよりは、順序立てて整備する中では、5か年の計画の中には入ってきていないということです。この浜幹線のあたりまでくれば接続可能になって、一気に南小学校まで給水可能になりますので、ご理解いただければと思います。

(委員)

はりまの水だよりも耐震化計画のことが書いてありますが、はっきり言ってよくわかりません。会議に出てこそわかることがありますけど、もう少し具体的なことを載せる必要があるのではないかと思います。南小学校の周りは浄水場から遠いから後になるというのであれば、ではどうすればいいのかということも考えていただきたいなと思います。

(会長)

町としては、そういうところは一番に給水車を出すなどして対応するということだと思います。同時に整備することができないことは確かで、やはり水は流れてくるものだということです。ただ、今のご意見を聞いて、給水車を一番に出すであるとか、そういったことで対応してある程度合理的にやっていく必要があるかと思っておりますので、住民への説明が必要だというご意見ですよね。

(事務局)

国から、急に上下水道耐震化計画を作成しなさいという指示があって、たまたま播磨町では地域防災計画の中で16施設を盛り込もうとしていたタイミングでしたので、この耐震化計画に基づいて事業を進めるのは他の団体と比べても早い方になります。先ほど南小学校のところが遅れているというお話でしたが、16施設の中では優先順位としては上位に位置付けておりますので、できる限り急ぎたいと思っています。また、令和9年度に加圧給水車の購入を考えておりますので、そういったもので対応していくという形で考えています。

(会長)

ありがとうございます。そうしましたら、後半のところがございますので、後半部分について事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

41ページをご覧ください。

投資・財政収支計画の前提条件です。投資・財政収支計画とは、計画期間内の収入と支出の見通しを整理して、経営が成り立つかどうかを確認するためのものとなっています。今回、投資・財政収支計画を見直すにあたって、前提条件についても見直しを行います。計画策定当初に設定した条件をベ

ースに、見直しを行いました。見直しの概要について説明します。

まず、最新年度の値で一定としているものは、令和6年度の決算値を用いるようにしています。直近5年間の平均値は、令和2～6年度の値としています。その他、経常的な経費は物価上昇を想定して年々経費が上昇するようにしました。営業外費用の支払利息についてですが、変更前は利率1.0%で計算していました。しかし、現在は計画策定当初と比べて大幅に金利が上昇しているため、利率を見直しています。利息支払い総額の低下を期待して、全期間固定から利率見直し方式での借り入れに変更して計算しています。資本的収支の収入の部、企業債（借入金のこと）ですが、変更前は起債充当率を一律60%としていましたが、本計画期間内は集中投資により事業費の増加を見込んでいますので、資金不足に備えるため借入額を増やして計算しています。国庫補助金については、補助率1/3を見込んでいます。

42ページをご覧ください。

こちらは、収益的収支の投資・財政収支計画になります。令和6年度までは決算値に置き換えており、令和7年度以降は推計値です。数字がたくさん並んで見にくい表になっていますが、表の一番下の当年度純利益の欄をご覧ください。本計画期間中である令和13年度まで、黒字が確保できていることがわかるかと思えます。ただし、前回の計画と比べて当年度純利益は大幅に減少する予想となっています。この主な原因は、前回の計画と比べて収入面で大きな変化がない一方、支出面では、物価上昇に伴い経費が増加していること、金利の上昇により企業債利息が増加していることが挙げられます。

43ページをご覧ください。

こちらは、資本的収支の投資・財政収支計画になります。資本的支出の建設改良費の欄をご覧ください。前回の計画と比べると、建設改良費が大幅に増加していることがわかります。これは、上下水道耐震化計画に基づいて集中投資することの影響によるものです。その一方で、資金不足を補うために企業債の金額も増やしています。そのため、一番下の欄、企業債残高も前回計画に比べて増加のスピードが早まっています。

これらの計画を元に、長期的な展望がどうなるかシミュレーションした結果がページ下部にあるグラフになります。前回計画と見比べてみてください。

まず、料金収入と利益の推移予想ですが、前回計画では赤字になる年度が2045年度と予想していましたが、変更後の計画では赤字になる年度が大幅に早まっています。これは、収益的収支の投資・財政収支計画の説明をした際に申し上げたとおり、収入が変わらない一方で経費が当初計画に比べて大幅に増加することが原因です。

また、右のグラフである現金預金残高の推移予想では、現金不足に陥る年度も早まっています。元々の計画であっても、将来的に現金が不足することは見込まれていましたが、そのスピードが大幅に早まる結果が示されています。目標値の説明をした際に、2031年度で資金残高を10億円以上とする目標を達成することが難しいと言いましたが、それはこのグラフを見ればおわかりいただけるかと思えます。

ただし、新しい投資財政収支計画は、これまで見込んでいなかった物価上昇率を加味しているなど、従来の計画より厳しめに数値を算出しています。実際には、もう少し余裕があるような決算となる可能性もあります。それでも、変更前と比べて赤字になる年度、資金不足となる年度が早まる傾向になるであろうことは強く予想されるところであります。

本計画では、算定期間を5年毎で区切り、料金改定が必要かどうか継続的に検証を行うこととして

います。次は、来年度に2028～2032年度を算定期間として検証を行いたいと考えていますので、委員の皆様にはご協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局からの説明は、以上です。

(会長)

ありがとうございました。それではここで質問の時間をとりたひと思ひます。いかがでしょうか。私からよろしいでしょうか。43ページのところは、金利の上昇、それと物価の上昇があつて、お金が減つていくスピードが早くなつていくという話ですけど、これは水道料金を上げずに今の料金のままだとこうなりますよということですよ。

(事務局)

そうですね。料金改定をせずに、今の料金のままでいけばという話になります。

(会長)

わかりました。ほかにご質問いかがでしょうか。

(委員)

私は播磨町の努力を見ていて、料金改定をよくここまで引張つたなと思ひます。今後、どうしても料金改定せざるを得ないということになれば、それはちゃんと説明がつくと思ひます。だから、このあたりで料金改定した方がいいぞという目論見は持っていた方がいいのかなど。「もっと水を使いましょう」と言うわけにもいかないのだから、資金を捻出するにはもう料金改定しかないですよ。このグラフを見たら、その準備は早めにしておいて、料金改定の話になつたとしてもいいですよと思ひ思うのですが皆さんどうでしょうか。

(委員)

そう思ひます。私もいろいろな自治体を見ていますが、播磨町は安いです。ちょっとでも料金が上がると色々言われる方もいるかと思ひますが、アフターケアなど考えると少しはいいのではないかと思ひますけどね。

(事務局)

資金の減少スピードは早まっていますが、改定後の見通しでも計画期間中に直ちに赤字になるわけではなく黒字を確保しています。よつて、ただちに料金改定が必要であるとまでは考えていませんが、料金改定の必要性については5年ごとに検証するという事になっていますので、来年度には2028年から2032年の5年間を算定期間として検証したいと考えていますので、委員の皆様からもご意見を頂戴したいと思ひます。

(会長)

物価上昇がこのくらいだったら、このくらい料金を上げるみたいな感じの方が本当は楽ですよ。きつちりした事業をされているわけだから、料金改定することを気にする必要はなくて、堂々と料金改定すればいいのかなど私と思ひますけどね。収入の低い方に対する対応はまた別の話であつて、世の中の物価が上がっているから水道料金も上がるというのは当然であるといった風潮も必要なことではないかと思ひます。下手にケチられてサービスが悪くなつたら、住民としては困るという意見の人が多ひことも確かなので、自治体のサービスであつても、将来にわたつて持続的に質を維持するため

には、値上げも必要ですということは重要なことなのかと思います。

(委員)

生活保護を受けられる方とか、そういう方はまた別の話で、普段から持続したサービスを提供してもらおうと思ったら、それなりの負担は必要ですね。

(会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(委員)

43ページの資本的収支ですが、企業債として借り入れる金額は、工事に必要な金額が試算されていて、それをカバーできる金額を借りるという計算がされているという認識で良かったでしょうか。

(事務局)

そうですね。この計画とは別に投資計画を作っていて、そこで今後必要になる工事費、修繕費、委託費などを試算しています。借入額については、事業費の6割では資金が足りない見込みとなっていますので、少し増やして計算しています。実際には事業の繰越などが発生しますので、この計画どおりに推移するわけではありませんが、おおむねこのような見込みになるということでご認識いただければと思います。

(会長)

地面の中だから、埋めて、掘ってという感じで結構大変みたいですよ。

(事務局)

更新事業というのは、今ある管を使いながら、新しい管を入れていくことになります。もしその新しい管を入れることができなければ、仮設の管を入れて、そして古い管を撤去してから同じ場所に新しい管を入れるという作業になって、同じような作業を繰り返さないと更新が進まないというのがあります。

(会長)

常に動いているから、循環器系の手術と一緒に仮にここを通して手術してまたここで戻してみたいな、常にずっと動かしておかないといけないところが、やっぱり大変ですよ。肺とか心臓とか、手術中ずっと動かしていないといけないから、大変ですね。仮のバイパスを作って、機械を通してまた元に戻ってっていうね。その後に大丈夫なのかを見ないといけないというのもありますからね。そこは結構大変なのかなと思います。

(委員)

令和3年度以降の推計値と決算値に大きな差があるのですが、これはどうしてでしょうか。

(事務局)

事業の繰越があると、その年度中に数字が上がってこないというところがあります。それと、予算値というのはやはり多めに見ていまして、実際入札にかけることで低い金額で契約できるということもありますので、どうしても乖離が生じます。

(会長)

よろしいでしょうか。それでは、修正案ということで、2022年から2031年までという長い期間の経営戦略ですが、この数年間多くの出来事がありました。上下水道に関して災害や事故があって、国の方針が変わったり、金利も変わるしということで、結構変動要因が多いです。改定案の中で、「グループ」が「課」になったというのは問題ないと思うのですが、それ以外のところの投資計画であるとか、国のお金が使えるところとか、集中的に投資をするから事業をスピードアップしてやっていこうというところで、将来的に収入があまり変わらない中で支出は増えていくから、思ったよりも早くお金がなくなるといことですね。全体を見ていかがでしょう。ご質問や感想などいただければと思います。

(委員)

播磨町の水道は、他の地域にいる兄弟や親せきが比べると、やはり美味しいと評価されていると思います。将来的に資金がマイナスに転じるという説明がありましたが、そうなる前に手を打って物価の上昇に合わせて水道料金を上げてもいいのではないかとするのは、私も賛成です。みなさん公務員ですので、2年3年したらメンバーも変わって、次の人が引き継いだときに、もうこれ赤字じゃないかというようなことにならないように、余裕をもって引き継いでもらえればと思います。災害に関しても、マンホールトイレなどの説明をしていただきましたが、そういったことにもすごいお金がかかります。これから災害に備える中で、今までお金をかけてこなかったということにもお金がいるんですよということをもっとアピールすれば、値上げに関しても住民の協力を得られるのではないかと気がしています。

(会長)

まだ料金改定をするという話ではなくて、先の話にはなるのですが、そういったことにもなるかもしれないですね。早いうちに、お知り合いの方などにもこういったお話をどこかで報告されたりすると、町は市より範囲が狭いから話が伝わりやすいと思うので、ご出席いただいた方が皆様に伝えていただけるとすごくいいのかなと思います。他にいかがでしょうか。

(委員)

こうやってビジョンとか経営戦略といったことに触れる機会があまりなくて、触れられたことに新鮮な気持ちでいます。先々手を打って、形を改善、強靱化していくというのは大事だと思うので、5年に1回検討されるというお話でしたけどもう少しサイクルを早くして検討してもいいのかなという風にも思いました。住民の皆さんの意見もいろいろあるとは思いますが、よろしくお願いします。

(委員)

この3、4年の間に起こった物価高などで、これだけ収支に影響が出ているというのがちょっと驚きで、前回料金改定した際に当分値上げは必要ないだろうと思っていましたが、どうなのか心配ですね。

(会長)

ありがとうございます。あの時は当分値上げの必要ないだろうという話でしたけど、そのぐらい変わっているということだと思いますね。他にいかがでしょうか。

(委員)

やっぱり、サービスをしっかり維持していただいているので、より良いサービスをするためにも値上げは当たり前のことだと思います。

(委員)

私は、昔から上下水道課は信頼しております。どうぞよろしくをお願いします。

(会長)

元々のビジョンが基本的な考えはしっかりされていて、今回改訂はしますけども、改訂するところは本当に誰もわからなかったものですからね。そういう意味では、策定した当時にはベストなものを作られていたのではないかと思いました。そうしましたら、他に質問等ないようで、予定の時間を過ぎましたので本日の議事を終えたいと思います。では、司会を事務局にお返しいたします。

(事務局)

竹川会長、円滑な議事進行をありがとうございました。また、委員の皆様には、熱心なご審議を賜りありがとうございました。

続いて、次第の「7 その他」で今後のスケジュールについて説明させていただきます。

委員会は、次回、令和8年度に開催させていただく予定ですが、時期は現在のところ未定です。

本日頂戴しました委員の皆様のご意見を参考に、水道事業ビジョン・経営戦略の一部改定を行わせていただきます。

次回の開催日については、委員の皆さまに改めてご都合をお伺いして、決定したいと思います。開催のご案内につきましては、改めて文書でお知らせいたしますので、その際にはご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、本日の会議の議事録につきましては、委員の皆様にご確認いただいたのち、個人名等は伏せたいので後日、町のホームページで公開させていただきます。

委員の皆様におかれましては、今後ともご指導とご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、播磨町上下水道運営委員会を閉会いたします。

皆様、本日は長時間ありがとうございました。